

二十四節気 **立夏**
(5月5日)

七十二候 **蚯蚓出**みみずいずる
(5月11日)

竹笋生(たけのこしょうず)
(5月16日)

報告者 上田真佐江

1 季節の移ろい 立夏は、春分と夏至の中間。若葉が茂る森では風が薫り、キビタキの声も聞こえます。
(撮影：5月3日～10日)



モウソウチク イネ科
タケノコが出てきました。マダケよりも材がしっかりしており、青竹ふみの材料として好評。



カマツカ 鎌柄 バラ科
強靱で弾力に富むので工具や農具の柄に利用されます。似た花をつけるサワフタギの花は既に散りました。



クサノオウ ケシ科
消炎、鎮痛作用があり「湿疹（くさ）の王」が名の由来との説があるそうです。



ヒメコウゾ クワ科
赤い粒々になれば食べ頃！



ヤマグワ クワ科
黒くなれば食べ頃！



ハナイカダ ハナイカダ科 果実へと成長中



雌花

雄花

1年前に受粉した雌花
(緑色のまつかさ)

2年前に受粉した雌花
(まつかさ)

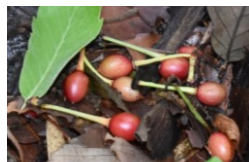
アカマツ マツ科
受粉してから成熟した種子ができるまで、1年以上かかります。



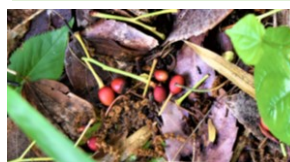
ヒトリシズカ センリョウ科 果実へ成長中



フタリシズカ センリョウ科 花



ヤマザクラ バラ科



オオシマザクラ バラ科



ウワミズザクラ バラ科



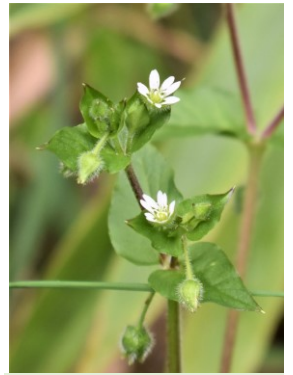
イヌザクラ バラ科



モンシロチョウ シロチョウ科



アオスジアゲハ アゲハチョウ科
ハルジオン キク科
チョウの脚は花粉だらけ。翅にも黄色い粉が！チョウが蜜を求めて花から花へ移るたびに、花粉も運ばれてゆきます。



ハコベ ナデシコ科
春の七草のひとつ。
花弁が10枚に見えるが実は5枚。1枚が深く切れ込み2枚に見えます。虫からは華やかに見え、花粉をはこべ!!と虫にアピール!?



ホソヒラタアブ ハナアブ科
ホバリングが軽やか。



ヒメウラナミジャノメ
タテハチョウ科
草地でよく見られます。



アカガネサルハムシ ハムシ科



コジャノメ タテハチョウ科
森の中で出会えます。



イチモンジカメノコハムシ
ハムシ科
ムラサキシキブやコムラサキの葉についています。



アカサシガメ サシガメ科
成虫で越冬。食べ物は小さな昆虫の体液。



スイカズラ 忍冬
スイカズラ科
林縁で咲いています。



ハリエンジュ マメ科
別名 ニセアカシア
蜜源植物、土止め用の植栽等に利用されますが、根萌芽するなど繁殖力が強く生態系を変えてしまうので、こんぶくろでは駆除対象です。環境省、農林水産省発行「生態系被害防止外来種リスト」の「産業管理外来種（適切な管理が必要な産業上重要な外来種）」のリストに、キウイフルーツ、モウソウチク等の竹類と共に入っています。



シロダモ クスノキ科



ユズリハ ユズリハ科



こんぶくろ池、弁天池、排水路からの水が流れる地金堀周辺でもカサスゲが茂り、ヨシも増えています。近くの開けた場所でズミの実生が見つかりましたが...



コナラ ブナ科
林床でたくさんの実生が育っています。里山で多く見られる種。どنگりに蓄えた養分で1年くらい育った後は、ある程度の明るさがないと大きくなれません。ナラ枯れ伐採木のそばでも、実生が育つよう見守りたいものです。

カサスゲ カヤツリグサ科
かつては、菅笠の材料として利用されました。元々こんぶくろ池は貧栄養なのが特徴で、ヨシはほぼ見られません。2018年から富栄養化が原因とされるアオコが発生するようになりました。カサスゲも増加傾向。



キンラン ラン科
先週の報告で、昨年と比べて今年の開花株数は増加。キンランやギンランが多く開花する林内では、これからクモキリソウ、オオバノトンボソウ、コクランなどが花をつけます。



ギンラン ラン科



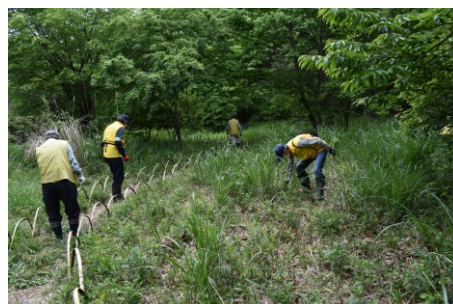
ササバギンラン
ラン科

2 植生調査 **ギンラン** **ササバギンラン** 開花株数

ギンラン 中央1～6：計84株（昨年33株）
ササバギンラン 中央3, 6：計12株（昨年13株）
ギンランの開花株数が多く、園路からも見られます。

3 **ノジトラノオ草地の整備**

ノジトラノオ（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類（VU））、ヒヨドリバナ、ヒキヨモギなどが出てきました。それらの保全のために、セイタカアワダチソウの抜き取りを行いました。



参加人数

6名